

第12回ジオパーク下仁田協議会 顛末

日時 平成28年 2月17日(水) 午後1時30分～

場所 下仁田町役場 201 会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 報告事項等

(1) ジオパークのユネスコ正式プログラムについて

(ユネスコ正式事業化決定に関するコメント参照)

(2) 再認定審査結果報告書について

(第25回日本ジオパーク委員会審査結果報告書 参照)

質疑：指摘事項にあった行政の全庁的な取り組みについてどのように対策するか？

回答：組織体制を見直し、各専門部会を作り、部会に行政の担当課・係にも入ってもらおう。

質疑：審査報告の最後に「要望があれば日本ジオパーク委員会として積極的に支援する」とあるが日本ジオパーク委員を利用する方針は何かあるか？

回答：JGC に具体的にどこまで支援いただけるか聞いて、講師をお願いしたり、協議会顧問としてアドバイスをいただくようなことを考えている。

4 協議事項

(1) ジオパーク下仁田協議会推進運営委員会規約について

(協議会規約、推進体制案 参照)

質疑：これまでの協議会との違いは？

回答：従来は、事務局提案を承認する協議会。新しい協議会組織は幅広く意見を取り入れるため、各組織から1名協議員の選任してもらい、さらに下部組織に部会をつくり、部会から提案を挙げて協議会で検討するようにする。

質疑：部会同士の連携についてはどう考えているか？

回答：推進運営委員会については、各部会長を招集し、各部会同士の検討内容も共有できるようにする。

質疑：新体制はいつから動き始めるのか？

回答：4月から動く予定。

意見：関東大会の委員会を新しく作るのでは間に合わないので、推進運営委員会がこれを担う形をとってはどうか？

意見：今回の審査の問題点は、事務局が行政主導だったことが問題点。ジオパーク運営を担う応援団、自然学校も協議会事務局に加わってもらい。事務局提案に民間の意見も踏まえる形をとってはどうか？

意見：推進運営委員会での各部会長の情報共有もいいが、部会員同士の情報共有の場も設けたほうがいい。

意見：再審査の指摘事項で挙げた課題についてどの部会がどの課題に取り組むかを割り振って、2年後に解決方針が出せるスケジュールを作って取り組んではいか？

意見：協議会や各部会に選任してもらう際にあて職で、1年で人が変わってしまうような組織では、再審査の時に問題になるのでは？

→現状の組織図に以上の意見を検討していくことで承認されました。

(2) ガイド養成講座について

質疑：青倉やクリッペ周辺のジオサイトが研修内容に入っていないが計画はあるのか？

回答：今年度は関東大会のモデルコースを中心とした現地研修。次年度以降計画したい。

意見：こういったガイド計画をガイド部会から上げてもらって協議会で検討すればよいのではないか？

意見：各講座ごとに修了したらスタンプを押すようにして、スタンプがたまればガイド認定にするなど、講習に参加したくなる仕組みを作ってはどうか？

(3) 下仁田ジオパークフォトコンテストについて

(4) その他

- 下仁田自然学校ではこれまでの研究成果をまとめた報告書を作成している。（年度末発行予定）研究成果をジオパーク推進にぜひ活用していただきたい。
- 指摘事項の「地球科学的遺産の科学的な評価にも多面的な研究をすすめ」とあるので、学術部会には、地学分野だけでなく、歴史や動植物の分野も入れてほしい。
- また、可能であれば学術奨励金などの制度を使って学会や大学に呼びかけて研究者を地域に入れて、地域に様々な研究者が入るようにしてはどうか。
- 町では平成27年度蒔田不動の滝ジオサイトの駐車場、平成28年にはねこし峡（予算が承認された場合）の駐車場整備を予定している。
- 広報誌に協議会の活動を報告し、協議会が機能していることを周知したほうがよいのではないか